

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月6日

【四半期会計期間】 第14期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 ルネサスエレクトロニクス株式会社

【英訳名】 Renesas Electronics Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼CEO 遠藤 隆雄

【本店の所在の場所】 東京都江東区豊洲三丁目2番24号

【電話番号】 03(6773)3000(代表)

【事務連絡者氏名】 法務統括部長 新開 崇平

【最寄りの連絡場所】 東京都江東区豊洲三丁目2番24号

【電話番号】 03(6773)3000(代表)

【事務連絡者氏名】 法務統括部長 新開 崇平

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期 第2四半期 連結累計期間	第14期 第2四半期 連結累計期間	第13期
会計期間		自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (第2四半期連結会計期間)	(百万円)	416,928 (207,669)	360,701 (181,399)	791,074
経常利益	(百万円)	49,094	67,121	105,335
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (第2四半期連結会計期間)	(百万円)	35,118 (13,919)	57,409 (27,537)	82,365
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	46,661	48,514	122,544
純資産額	(百万円)	248,591	360,414	311,909
総資産額	(百万円)	836,752	866,364	840,087
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (第2四半期連結会計期間)	(円)	21.07 (8.35)	34.44 (16.52)	49.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	27.9	41.3	36.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	51,553	76,619	116,746
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	25,775	17,354	26,603
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	8,431	12,501	23,762
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	288,244	388,084	343,722

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

(1) 平成27年4月1日を効力発生日とし、当社のデバイス・ソリューション開発機能を簡易吸収分割方式により(株)ルネサスソリューションズへ移管しました。

(2) 平成27年4月1日を効力発生日とし、当社の開発支援機能を簡易吸収分割方式によりルネサスエンジニアリングサービス(株)へ移管しました。

(3) 平成27年4月1日を効力発生日とし、(株)ルネサスソリューションズのキット、プラットフォーム、分野ソリューションおよび拡販インフラの各開発機能などを簡易吸収分割方式により当社へ移管しました。

(4) 平成27年4月1日を効力発生日とし、(株)ルネサスソリューションズは、ルネサスシステムデザイン(株)を吸収合併し、ルネサスシステムデザイン(株)に商号変更しました。

この結果、平成27年9月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社30社(国内4社、海外26社)および持分法適用会社3社(国内2社、海外1社)により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間の業績は次のとおりであります。

(単位：億円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比 増(減)	
売上高	4,169	3,607	562	13.5%
(半導体売上高)	4,008	3,515	493	12.3%
(その他売上高)	161	92	69	43.0%
営業利益	505	631	126	24.9%
経常利益	491	671	180	36.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	351	574	223	63.5%
米ドル為替レート(円)	102	122	-	-
ユーロ為替レート(円)	139	134	-	-

(売上高)

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前第2四半期連結累計期間と比べ13.5%減少し3,607億円となりました。米ドル為替レートが改善したものの、当社グループが推進している事業の選択と集中により、携帯端末など中小型パネル向け表示ドライバICなどの半導体売上高が減少したことが、売上減の主な要因であります。

(半導体売上高)

当第2四半期連結累計期間の半導体売上高は、前第2四半期連結累計期間と比べ12.3%減少し3,515億円となりました。当社グループの主要な事業内容である「自動車向け事業」、「汎用向け事業」およびこれらに属さない「その他半導体」の各売上高は、以下のとおりであります。

<自動車向け事業>：1,613億円

自動車向け事業には、自動車のエンジンや車体などを制御する半導体を提供する「車載制御」とカーナビゲーションなどの車載情報機器向け半導体を提供する「車載情報」が含まれております。当社はそれぞれマイクロコントローラ、アナログ&パワー半導体、SoC(システム・オン・チップ)を提供しております。

当第2四半期連結累計期間における自動車向け事業の売上高は、前第2四半期連結累計期間と比べ1.7%増加し1,613億円となりました。「車載制御」および「車載情報」の売上が共に増加したことなどによるものであります。

<汎用向け事業>：1,878億円

汎用向け事業には、産業機器や白物家電など向け半導体を提供する「産業・家電」、複合機などのOA(Office Automation)機器やネットワークインフラなどのICT(Information and Communication Technology)機器向け半導体を提供する「OA・ICT」およびその他の汎用半導体を提供する「汎用製品」が含まれております。当社はそれぞれマイクロコントローラ、アナログ&パワー半導体、SoCを提供しております。

当第2四半期連結累計期間における汎用向け事業の売上高は、前第2四半期連結累計期間と比べ21.6%減少し1,878億円となりました。主に、「OA・ICT」および「産業・家電」の売上が増加したものの、「汎用製品」において売上が減少したことによるものであります。特に、「汎用製品」においては、中小型パネル向け表示ドライバICを事業対象とする連結子会社であった(株)ルネサスエスピードライバの当社が保有する全株式を平成26年10月1日付で米国Synaptics Incorporatedの欧州子会社に譲渡したため、前第2四半期連結累計期間と比べ売上が減少しました。

<その他半導体事業>：25億円

その他半導体事業には、主に受託生産やロイヤルティ収入が含まれております。

当第2四半期連結累計期間におけるその他半導体事業の売上高は、前第2四半期連結累計期間と比べ6.2%減少し25億円となりました。

(その他売上高)

その他売上高には、当社の設計および生産子会社が行っている半導体の受託開発、受託生産などが含まれております。

当第2四半期連結累計期間のその他売上高は、前第2四半期連結累計期間と比べ43.0%減少し92億円となりました。

(営業利益)

当第2四半期連結累計期間の営業利益は631億円となり、前第2四半期連結累計期間と比べ126億円の改善となりました。これは、米ドル為替レートが改善したことに加え構造改革施策の実行により売上総利益率などの収益構造が改善したことなどによるものです。

(経常利益)

当第2四半期連結累計期間の経常利益は671億円となり、前第2四半期連結累計期間と比べ180億円の改善となりました。これは、為替差益などの営業外収益を66億円計上したことなどにより、営業外損益が40億円の利益となったことによるものです。

(親会社株主に帰属する四半期純利益)

当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は574億円となり、前第2四半期連結累計期間と比べ223億円の改善となりました。これは、営業損益や経常損益の改善に加え前第2四半期連結累計期間と比べて事業構造改善費用を中心とした特別損失の計上減少したことなどによるものです。

(2)財政状態

<資産、負債および純資産>

(単位：億円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成27年9月30日)	前期末比 増(減)
総資産	8,401	8,664	263
純資産	3,119	3,604	485
自己資本	3,095	3,582	487
自己資本比率(%)	36.8	41.3	4.5
有利子負債	2,597	2,548	49
D/Eレシオ(倍)	0.84	0.71	0.13

当第2四半期連結会計期間(以下「当第2四半期」)の総資産は8,664億円で、前連結会計年度と比べ263億円の増加となりました。これは、当第2四半期連結累計期間において、構造改革施策などの推進により税金等調整前四半期純利益を計上したことなどにより、営業活動に関するキャッシュフローが改善し現金及び預金が増加したことなどによるものであります。純資産は3,604億円で、前連結会計年度と比べ485億円の増加となりました。これは、新興国通貨に対して円高となり為替換算調整勘定が悪化したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を574億円計上したことなどによるものであります。

自己資本は、前連結会計年度と比べ487億円増加し、自己資本比率は41.3%となりました。また、有利子負債は、前連結会計年度と比べ49億円の減少となりました。これらの結果、D/Eレシオは0.71倍となりました。

< キャッシュ・フロー >

(単位：億円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	516	766
投資活動によるキャッシュ・フロー	258	174
フリー・キャッシュ・フロー	258	593
財務活動によるキャッシュ・フロー	84	125
現金及び現金同等物の期首残高	2,659	3,437
現金及び現金同等物の期末残高	2,882	3,881

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、766億円の収入となりました。これは主として、未払金及び未払費用の支払いがあったものの、税金等調整前四半期純利益を622億円計上したこと、およびその中に含まれる減価償却費などの非資金項目を調整したことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、174億円の支出となりました。これは主として、貸付金の回収による収入があったものの、有形固定資産の取得による支出を205億円計上したことなどによるものであります。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるフリー・キャッシュ・フローは、593億円の収入となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、125億円の支出となりました。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は467億円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第2四半期連結累計期間の末日現在（平成27年9月30日）における当社グループの従業員数は20,475人となり、前連結会計年度の末日現在（平成27年3月31日）と比べ、608人減少しました。

当社グループは半導体事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載は省略しております。

また、従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。）であります。

(6) 主要な設備

当連結会計年度における当社グループの設備投資の新設、除却などの具体的な計画については、第1四半期連結会計期間に係る四半期報告書提出日時点においては確定しておりませんでした。次のとおりその計画が確定しました。

第3四半期連結累計期間における投資額は、合計約440億円を計画しております。設備投資額は、当社グループにおける有形固定資産（生産設備）および無形固定資産の発注額を表しています。

主な投資内容としては、前工程や後工程の増強に係る設備投資や、平成25年8月2日に公表した生産構造改革に伴う設備投資であります。その所要資金は、主に自己資金を充当する予定であります。

また、当第2四半期連結累計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

なお、当社グループは半導体事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載は省略しております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,400,000,000
計	3,400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月6日)	上場金融商品取引所 名または登録認可金 融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,667,124,490	1,667,124,490	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	1,667,124,490	1,667,124,490		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年9月30日		1,667,124,490	218,255	10,000	163,789	

(注) 当社は、平成27年6月24日開催の第13期定時株主総会決議に基づき、平成27年9月30日付で資本金の額を218,255百万円、資本準備金の額を163,789百万円それぞれ減少させその他資本剰余金へ振替えた後、その他資本剰余金の額うち551,749百万円を繰越利益剰余金へ振替えて欠損の填補を行いました。

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名または名称	住 所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式 数の割合 (%)
(株)産業革新機構	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	1,152,917,000	69.15
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (三井住友信託銀行再信託分・日本電気 (株)退職給付信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	135,300,000	8.11
(株)日立製作所	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	127,725,748	7.66
三菱電機(株)	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	104,502,885	6.26
トヨタ自動車(株)	愛知県豊田市トヨタ町1番地	41,666,600	2.49
日産自動車(株)退職給付信託口座 信託受託者 みずほ信託銀行(株) 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8番地12号	25,000,000	1.49
日本電気(株)	東京都港区芝五丁目7番1号	12,595,857	0.75
(株)ケーヒン	東京都新宿区西新宿一丁目26番2号	8,333,300	0.49
(株)デンソー	愛知県刈谷市昭和町一丁目1番地	8,333,300	0.49
キャノン(株)	東京都大田区下丸子三丁目30番2号	4,166,600	0.24
パナソニック(株)	大阪府門真市大字門真1006番地	4,166,600	0.24
計	-	1,624,707,890	97.37

- (注) 1 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
- 2 日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (三井住友信託銀行再信託分・日本電気(株)退職給付信託口) の所有株式数135,300,000株 (発行済株式総数に対する所有株式数の割合8.11%) は、日本電気(株)が保有する当社株式の一部を退職給付信託に拠出したものであります。
- 3 日産自動車(株)退職給付信託口座 信託受託者 みずほ銀行(株) 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)の所有株式数25,000,000株 (発行済株式総数に対する所有株式数の割合1.49%) は、日産自動車(株)が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式1,667,116,700	16,671,167	
単元未満株式	普通株式 5,290		
発行済株式総数	1,667,124,490		
総株主の議決権		16,671,167	

(注) 「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の株式200株(議決権2個)が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
ルネサスエレクトロニクス(株)	東京都江東区豊洲三丁目2番24号	2,500		2,500	0.00
計		2,500		2,500	0.00

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第2四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第64条第3項および第83条の2第3項により、四半期連結会計期間に係る四半期連結損益計算書および四半期連結包括利益計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	344,000	388,694
受取手形及び売掛金	91,471	86,070
商品及び製品	38,203	41,983
仕掛品	66,761	68,202
原材料及び貯蔵品	6,457	6,376
未収入金	14,174	15,621
その他	10,089	8,779
貸倒引当金	92	87
流動資産合計	571,063	615,638
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	73,920	71,679
機械及び装置（純額）	55,233	56,098
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	16,745	17,032
土地	27,277	27,274
建設仮勘定	8,640	7,621
有形固定資産合計	181,815	179,704
無形固定資産		
ソフトウェア	9,743	9,173
その他	18,509	16,725
無形固定資産合計	28,252	25,898
投資その他の資産		
投資有価証券	8,108	7,852
長期前払費用	35,024	30,676
その他	15,826	6,597
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	58,957	45,124
固定資産合計	269,024	250,726
資産合計	840,087	866,364

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
電子記録債務	9,275	9,213
支払手形及び買掛金	76,364	74,838
1年内返済予定の長期借入金	6,700	14,850
リース債務	1,135	1,107
未払金	37,337	32,935
未払費用	36,875	35,935
未払法人税等	5,785	5,923
製品保証引当金	366	301
事業構造改善引当金	3,871	4,694
偶発損失引当金	252	260
資産除去債務	2,089	446
その他	6,009	6,720
流動負債合計	186,058	187,222
固定負債		
長期借入金	246,505	234,005
リース債務	5,385	4,845
事業構造改善引当金	2,980	1,882
退職給付に係る負債	50,489	47,178
資産除去債務	2,862	2,915
その他	33,899	27,903
固定負債合計	342,120	318,728
負債合計	528,178	505,950
純資産の部		
株主資本		
資本金	228,255	10,000
資本剰余金	525,413	191,919
利益剰余金	475,815	133,343
自己株式	11	11
株主資本合計	277,842	335,251
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	716	542
為替換算調整勘定	13,716	5,272
退職給付に係る調整累計額	17,255	17,171
その他の包括利益累計額合計	31,687	22,985
非支配株主持分	2,380	2,178
純資産合計	311,909	360,414
負債純資産合計	840,087	866,364

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	416,928	360,701
売上原価	254,799	195,405
売上総利益	162,129	165,296
販売費及び一般管理費	1 111,603	1 102,203
営業利益	50,526	63,093
営業外収益		
受取利息	406	369
受取配当金	23	20
持分法による投資利益	123	9
為替差益	755	4,595
その他	588	1,584
営業外収益合計	1,895	6,577
営業外費用		
支払利息	1,586	1,462
退職給付費用	777	-
その他	964	1,087
営業外費用合計	3,327	2,549
経常利益	49,094	67,121
特別利益		
固定資産売却益	169	453
事業譲渡益	-	251
投資有価証券売却益	107	60
債務消滅益	2 1,694	-
特別利益合計	1,970	764
特別損失		
固定資産売却損	115	34
減損損失	496	74
事業構造改善費用	3 7,705	3 5,413
投資有価証券売却損	-	138
偶発損失引当金繰入額	240	62
特別損失合計	8,556	5,721
税金等調整前四半期純利益	42,508	62,164
法人税等	4,973	4,521
四半期純利益	37,535	57,643
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,417	234
親会社株主に帰属する四半期純利益	35,118	57,409

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	37,535	57,643
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	143
為替換算調整勘定	7,952	8,871
退職給付に係る調整額	1,140	82
持分法適用会社に対する持分相当額	32	33
その他の包括利益合計	9,126	9,129
四半期包括利益	46,661	48,514
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	44,065	48,707
非支配株主に係る四半期包括利益	2,596	193

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
売上高	207,669	181,399
売上原価	126,026	95,944
売上総利益	81,643	85,455
販売費及び一般管理費	¹ 58,101	¹ 54,725
営業利益	23,542	30,730
営業外収益		
受取利息	199	188
受取配当金	15	8
持分法による投資利益	79	3
為替差益	1,421	3,342
その他	310	1,070
営業外収益合計	2,024	4,611
営業外費用		
支払利息	791	733
退職給付費用	387	-
その他	637	854
営業外費用合計	1,815	1,587
経常利益	23,751	33,754
特別利益		
固定資産売却益	137	178
投資有価証券売却益	77	13
債務消滅益	² 1,694	-
特別利益合計	1,908	191
特別損失		
固定資産売却損	114	5
減損損失	426	45
事業構造改善費用	³ 6,997	³ 3,859
投資有価証券売却損	-	138
偶発損失引当金繰入額	10	38
特別損失合計	7,547	4,085
税金等調整前四半期純利益	18,112	29,860
法人税等	2,998	2,104
四半期純利益	15,114	27,756
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,195	219
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,919	27,537

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	15,114	27,756
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	96
為替換算調整勘定	9,333	12,018
退職給付に係る調整額	897	68
持分法適用会社に対する持分相当額	19	40
その他の包括利益合計	10,246	12,086
四半期包括利益	25,360	15,670
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,989	15,882
非支配株主に係る四半期包括利益	1,371	212

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	42,508	62,164
減価償却費	27,086	24,596
長期前払費用償却額	5,815	6,292
減損損失	496	74
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	6,470	3,816
事業構造改善引当金の増減額(は減少)	1,892	146
偶発損失引当金の増減額(は減少)	473	8
受取利息及び受取配当金	429	389
支払利息	1,586	1,462
持分法による投資損益(は益)	123	9
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	107	78
固定資産売却損益(は益)	54	419
事業構造改善費用	1,905	1,469
事業譲渡損益(は益)	-	251
売上債権の増減額(は増加)	20,118	4,167
たな卸資産の増減額(は増加)	7,444	6,077
未収入金の増減額(は増加)	3,755	1,783
仕入債務の増減額(は減少)	449	738
未払金及び未払費用の増減額(は減少)	179	6,728
その他	3,132	3,601
小計	61,311	81,395
利息及び配当金の受取額	500	460
利息の支払額	1,587	1,467
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	3,558	3,372
特別退職金の支払額	5,113	397
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,553	76,619
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	19,435	20,532
有形固定資産の売却による収入	618	540
無形固定資産の取得による支出	4,022	1,389
長期前払費用の取得による支出	1,297	1,443
投資有価証券の取得による支出	417	448
投資有価証券の売却による収入	521	619
子会社株式の取得による支出	3,200	-
事業譲渡による収入	-	252
事業譲渡による支出	448	-
貸付金の回収による収入	700	4,550
その他	1,205	497
投資活動によるキャッシュ・フロー	25,775	17,354

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	2,000	-
長期借入れによる収入	3,000	-
長期借入金の返済による支出	1,183	4,350
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,886	591
割賦債務の返済による支出	6,362	7,560
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,431	12,501
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,000	2,402
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	22,347	44,362
現金及び現金同等物の期首残高	265,897	343,722
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 288,244	1 388,084

【注記事項】

(連結の範囲または持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
1. 連結の範囲の重要な変更	
(1) 連結の範囲の変更	平成27年4月1日付けでの当社グループ内の設計・開発機能の再編に伴う合併による消滅により1社を連結の範囲から除外しております。
(2) 変更後の連結子会社の数	30社

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
(会計方針の変更)	
<p>「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。) および「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、 第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更および少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度については、四半期連結財務諸表および連結財務諸表の組替えを行っております。</p> <p>四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得または売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得または売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。</p> <p>企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)および事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。</p> <p>四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結財務諸表等におけるキャッシュ・フロー計算書の作成に関する実務指針第26 - 4項に定める経過的な取扱いに従っており、比較情報の組替えは行っておりません。</p> <p>なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。</p>	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
項目	
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

債務保証

前連結会計年度 (平成27年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)	
従業員の住宅ローンに対する保証	230百万円	従業員の住宅ローンに対する保証	207百万円
その他	499 "	その他	451 "
計	729百万円	計	658百万円

その他

当社グループは、S R A Mに関する独占禁止法(競争法)違反の可能性に関連して、同製品の購入者からカナダで複数の民事訴訟を提起されております。

当社の米国、欧州および韓国の子会社は、T F T液晶ディスプレイに関する独占禁止法(反トラスト法・競争法)違反の可能性について、それぞれ、米国司法省とカナダ競争当局、欧州委員会および韓国公正取引委員会の調査の対象となっております。

当社グループは、スマートカードチップに関する独占禁止法(競争法)違反の可能性に関連して、同製品の購入者からカナダで複数の民事訴訟を提起されております。また、当社および当社の欧州子会社は、スマートカードチップに関する独占禁止法(競争法)違反の可能性に関連して、同製品の購入者から英国で民事訴訟を提起されております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費

主要な費目および金額

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
研究開発費	50,263百万円	46,688百万円
従業員給料手当	23,012 "	20,968 "
退職給付費用	1,851 "	1,330 "
	前第2四半期連結会計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
研究開発費	26,305百万円	26,987百万円
従業員給料手当	11,106 "	10,082 "
退職給付費用	1,018 "	617 "

2 債務消滅益

過年度に計上した未払債務の履行義務が消滅したことによるものであります。

3 事業構造改善費用

当社グループは、強靱な収益構造の構築に向けて人的合理化施策を含む事業・生産構造対策などの諸施策を実行しており、それらの施策により発生した費用を事業構造改善費用に計上しております。

前第2四半期連結累計期間および当第2四半期連結累計期間における事業構造改善費用の内訳は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
割増退職金等人件費関係費用	5,904百万円	1,059百万円
減損損失	568 "	1,295 "
その他 ()	1,233 "	3,059 "
計	7,705百万円	5,413百万円

()当第2四半期連結累計期間におけるその他の主な内容は、拠点集約に伴う設備撤去費用や設計・開発拠点の再編に係る設備の移設費用などを計上したことによるものです。

前第2四半期連結会計期間および当第2四半期連結会計期間における事業構造改善費用の内訳は次のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
割増退職金等人件費関係費用	5,458百万円	593百万円
減損損失	568 "	1,295 "
その他 ()	971 "	1,971 "
計	6,997百万円	3,859百万円

()当第2四半期連結会計期間におけるその他の主な内容は、拠点集約に伴う設備撤去費用などを計上したことによるものです。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金	288,682百万円	388,694百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	438 "	610 "
現金及び現金同等物	288,244百万円	388,084百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成27年6月24日開催の第13期定時株主総会決議に基づき、平成27年9月30日付で資本金の額を218,255百万円、資本準備金の額を163,789百万円それぞれ減少させその他資本剰余金へ振替えた後、その他資本剰余金の額うち551,749百万円を繰越利益剰余金へ振替えて欠損の填補を行いました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)および当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

当社グループは、半導体事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

前第2四半期連結会計期間(自平成26年7月1日至平成26年9月30日)および当第2四半期連結会計期間(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

当社グループは、半導体事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 (円)	21.07	34.44
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	35,118	57,409
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	35,118	57,409
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,667,122	1,667,122

	前第2四半期連結会計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.35	16.52
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	13,919	27,537
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	13,919	27,537
普通株式の期中平均株式数 (千株)	1,667,122	1,667,122

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

(1) 決算日後の状況

特記事項はありません。

(2) 訴訟等

「注記事項 四半期連結貸借対照表関係 1 偶発債務 その他」に記載のとおりであります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月6日

ルネサスエレクトロニクス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上	村	純	
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	剣	持	宣	昭
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	花	藤	則	保

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているルネサスエレクトロニクス株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ルネサスエレクトロニクス株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。